

文化映画研究

電子書籍版 全5巻

[監修] アーロン・ジェロー
 [解説] アーロン・ジェロー
 佐藤 洋 森田のり子



1930年代後半、日本映画界の中核的な存在となった「文化映画」。国家プロパガンダなのか？ はたまた、真実の記録なのか？ その討論の中枢の場として機能した『文化映画研究』全号を収録。

ProductID	書籍-タイトル	書籍-巻次・年次	書籍-シリーズ名	プリント版出版年月	「同時アクセス数1」の販売価格(本体価)	「同時アクセス数3」の販売価格(本体価)
KP00053585	文化映画研究 第1巻第1号 (1938年3月) ~ 第1巻第6号 (1938年12月)	第1巻	文化映画研究	202109	¥17,380	¥34,760
KP00053586	文化映画研究 第2巻第1号 (1939年1月) ~ 第2巻第6号 (第5号) (1939年6月)	第2巻	文化映画研究	202109	¥17,380	¥34,760
KP00053587	文化映画研究 第2巻第7号 (第6号) (1939年7月) ~ 第2巻第11号 (1939年12月)	第3巻	文化映画研究	202109	¥17,380	¥34,760
KP00053588	文化映画研究 第3巻第1号 (1940年1月) ~ 第3巻第6号 (1940年6月)	第4巻	文化映画研究	202109	¥17,380	¥34,760
KP00053589	文化映画研究 第3巻第7号 (1940年7月) ~ 第3巻第11号 (1940年12月) / 解説	第5巻	文化映画研究	202109	¥17,380	¥34,760

〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10

株式会社紀伊國屋書店 デジタル・流通事業本部 デジタル情報営業部

ict_ebook@kinokuniya.co.jp 電話03-6910-0518

【本書の特色】

● **文化映画論壇の中枢**

『文化映画研究』は、大村英之助が1935年に創立した製作会社・芸術映画社の関連雑誌として創刊。映画法執行により文化映画上映が映画館で義務付けられ、文化映画が国家と映画の折衝の場となった当時、文化映画は国家プロパガンダなのか、真実の記録なのか等、多様な面を持つ文化映画を論じるための中枢の場として機能した。

● **批評、技術から文化性まで、幅広い内容**

内容は芸術映画社の機関誌の範疇を遥かに超え、自社作品の紹介のとどまらず、他社の作品の批評、撮影や録音から興行まで、記録映画やアニメーションを含む広い意味での文化映画の現状と実践、そして映画の本質や社会性・文化性についての論考も際立っている。

● **錚々たる執筆陣**

文化人や映画評壇の大家等が文化映画のみならず、映画とは何か、とりわけその現実性について討論。

文化映画関係者：円谷英二・厚木たか・石本統吉・萩原耐ほか 農村文学：和田伝・鍵田研一・藤森成吉ほか

映画音楽：早坂文雄・深井史郎・服部正ほか 文化人：柳田邦男・佐多稲子・村山和義・佐々木基一・三浦つとむほか

映画論壇：津村秀夫・上野耕三・関野嘉雄・亀井文夫・三木茂 等々豪華執筆陣。

● **最終巻末に詳細な解説を附す**

【本書の内容から】



関連タイトルのご案内 (価格は本体価格です)

● **映画芸術研究 全9巻揃い販売価格**

同時アクセス1 ¥204,600 同時アクセス3 ¥409,200

● **日本戦前映画論集 (ProductID:KP00027007)**

同時アクセス1 ¥10,560 同時アクセス3 ¥21,120